

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	城石俊彦	副委員長	三村徹郎	幹事	杉本亜砂子
主な活動	審議内容 ・統合生物学委員会の巖佐委員長と相談の上、引き続き基礎生物学委員会は、統合生物学委員会と合同で、春と秋の日本学術会議の総会に合わせて昼食時間に開催した。 ・それぞれの委員会に属する各分科会の開催状況、および、活動計画について報告・審議した。 ・多くの分科会はそれぞれ活発に活動をしている。 ・大型研究計画の審査状況や会員・連携会員の交代や選出に関する意見交換をメール上で行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	・それぞれの分科会が中心となりシンポジウムや報告・提言などの発出をおこなっている。これについてはそれぞれの分科会からの報告を見られたい。
	開催シンポジウム等
	予定されていたシンポジウムでコロナ禍のために中止となったものもあった。
開催状況	令和元年10月の総会時まで、統合生物学委員会との合同で基礎生物学委員会を開催してきた。しかし、令和2年4月の総会がコロナウイルス感染症蔓延のため延期になり、7月の総会も短期に、さらに一部オンライン開催になったこともあり、臨席での合同委員会は取りやめ、必要な意見交換はメール上で行った。
今後の課題等	・第24期の三年間で、「生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデジタル配列情報の折扱いについて」、「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」などの提言が所属する分科会から発出されるなど活発な活動があった。令和2年10月から第25期になり委員も入れ替わるが、引き続き総会開催時に統合生物学委員会との合同会議を開催することを希望している。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会					
委員長	岸本健雄	副委員長	寺北明久	幹事	深津武馬
主な活動	審議内容				
	・動物科学の振興策として、シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」を令和2年6月20日に開催とし、第288回幹事会での承認を得た。				
	・提言「国立自然史博物館設立の必要性」（平成28年5月17日発出）のフォローアップは更に進み、令和2年3月に沖縄県が公表した「新沖縄発展戦略：新たな振興計画に向けた提言」では、「国立自然史博物館の誘致」は「新たな沖縄振興計画に必要な重要事項」に挙げられた。これを受けて同年7月21日、玉城沖縄県知事に要望書「国立沖縄自然史博物館設立への取組みについて（要望）」を手交した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・「マスタープラン2020」では、大型施設計画「国立沖縄自然史博物館の設立－東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現による人類の持続可能性への貢献－」が重点大型研究計画（計画No.3）に採択された。				
開催シンポジウム等					

	上述のシンポジウムは、新型コロナウイルスの感染拡大で開催を中止した。
開催状況	(1)平成 29 年 11 月 4 日；(2)平成 30 年 2 月 28 日；(3)平成 30 年 9 月 20 日； (4)令和元年 7 月 31 日；(5)令和 2 年 1 月 24 日
今後の課題等	開催を中止したシンポジウムの再考と実施が、当面の課題である。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会					
委員長	西村いくこ	副委員長	三村徹郎	幹事	佐藤豊、山崎真巳
主な活動	審議内容				
	第 24 期の最重要活動として、植物科学における若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート調査を行った。PI から 97 件、学生、院生、卒業生から 319 件の回答を得ることができ、それについて分科会で議論を行った。さらに企業へのアンケートを加えて、日本植物生理学会大阪年会においてシンポジウムを開催予定であったが、COVID-19 により年会、シンポジウムとも中止となった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記、アンケート結果に基づく意思の表出を、来期の課題の一つと考えている。				
	開催シンポジウム等				
	令和 2 年 3 月 21 日に大阪大学において「植物科学分野における若手キャリアパスの現状と将来」という公開シンポジウムを予定していたが、COVID-19 により中止とした。				
開催状況	令和 2 年 1 月 21 日（火）第 24 期・第 2 回植物科学分科会・開催 令和 2 年 3 月 21 日（土）第 24 期・第 3 回植物科学分科会・中止				
今後の課題等	第 24 期でまとめる予定であった若手キャリアパスの現状を把握するためのアンケート結果をどのようにするか検討する。若手キャリアパス、大学院進学問題などについて、教育機関や関連分科会学会との連携を進める。植物科学のアウトリーチ活動についても検討する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会					
委員長	中野 明彦	副委員長	岸本 健雄	幹事	飯野雄一、石野史敏
主な活動	審議内容				
	高等学校で用いられる生物分野の重要用語に関して平成 29 年 9 月に公表した報告について、再設置した生物科学分野教育用語検討小委員会を中心に、改訂版を作成した。内容については、文部科学省、教育現場、教科書出版社等に指針として受け入れられた。医学と関連の深い用語については、日本医				

	学会と意見交換を行った。生物科学学会連合とも引き続き連携を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」令和元年 7 月 8 日出出。
	開催シンポジウム等
開催状況	
今後の課題等	高等学校生物用語については、今後にも必要に応じて改訂されていくべきものであり、数年のスパンで、学問の進展と研究者・教育者からのフィードバックを見据えた見直しを行うことが求められるだろう。また、高大接続の観点から、大学入試の出題等も注視していく必要があるだろう。

基礎生物学・統合生物学合同 海洋生物学分科会					
委員長	窪川かおる	副委員長	川井浩史	幹事	原田尚美・萩原篤志
主な活動	審議内容 （１）大学臨海実験所の現況および海洋生物学の研究と人材育成について （２）公開シンポジウムの開催について （３）マスタープラン 2020 への応募について （４）「学術の動向」特集について 意思の表出（※見込み含む） なし。これまでのシンポジウムおよび今回のシンポジウムの成果を基にし、海洋生物学の研究・教育施設の拡充と連携および人材育成の在り方を次期に予定し、作業を進めている。 開催シンポジウム等 公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の 10 年 -One Ocean の行動に向けて」を令和元年 11 月 6 日に開催した。				
開催状況	令和元年 11 月 6 日、令和 2 年 1 月 9 日、3 月 18 日に合計 3 回を開催した。COVID-19 の影響でその後の開催はしなかった。				
今後の課題等	海洋生物学の現状と将来についてシンポジウム等を開催しマスタープランの応募に繋げた。海洋科学の中での海洋生物学の在り方の議論をさらに深め、2021 年 1 月より開始される国連「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」との連動を提言等にまとめる。				

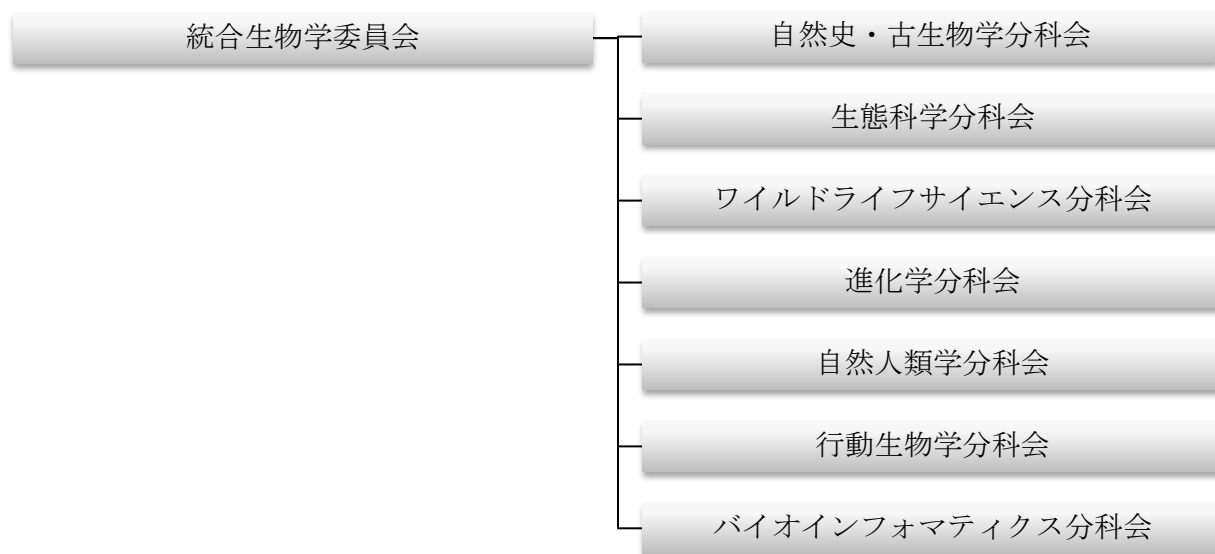
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物物理学分科会およびIUPAB 分科会					
委員長 (上段生物物理学、下段 IUPAB)	原田慶恵 野地博行	副委員長	永井健治 上田昌宏	幹事	徳永万喜洋 永井健治
主な活動	審議内容				
	公開シンポジウムについて審議 学術大型研究マスタープラン 2020 について審議 IUPAB congress 2023 の開催について審議 バイオインフォマティクス分科会との連携について審議				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	第 23 期に応募しマスタープラン 2017 に重点大型研究計画として採択された提言「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」を改訂し、マスタープラン 2020 に同じく「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」を継続提案した。				
	開催シンポジウム等				
	平成 30 年 8 月 31 日、日本学術会議講堂にて公開シンポジウム「新たな発見をもたらす科学における計測と予知・予測」を開催。令和 2 年 3 月 23 日同じく「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となった。				
開催状況	平成 30 年 2 月 2 日、平成 30 年 8 月 31 日、令和元年 5 月 29 日、令和 2 年 3 月 23 日いずれも両分科会合同で開催済み				
今後の課題等	延期となった公開シンポジウムのオンライン開催を検討。 IUPAB congress 2023 の開催に向けての準備、および新型コロナウイルス感染拡大の影響による開催年の変更について検討。				

基礎生物学委員会 IUBS 分科会					
委員長	西田治文	副委員長	武田洋幸	幹事	窪川かおる
主な活動	審議内容				
	国際生物科学連合 IUBS の国別会員である日本として、IUBS の事業を支援するための対外および国内活動を検討、立案、実行する。令和元年 7 月 29 日からオスロで開催された第 33 回総会に西田（国代表）と村上委員（役員候補）を派遣し、村上委員が役員に当選、次期総会の日本開催が決定した。なお、会長職にあった武田洋幸委員は任期を満了し、退任した。 出席報告 http://www.scj.go.jp/ja/int/haken/190729-0802.html				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定していない。				

	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	計3回の分科会（平成30年2月27日、7月20日、令和元年10月4日）を開催。令和2年度はCOVIDの影響で、Web会議を24期中に開催予定。
今後の課題等	令和4年度に日本開催が決議されている、第34回IUBS総会の招致準備。

基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 生物リズム分科会					
委員長	近藤孝男	副委員長	深田吉孝	幹事	上田 泰己、内匠透
主な活動	審議内容				
	本分科会の基礎となる概日生理学の討議のため、公開シンポジウムを札幌で開催した。一方、オリンピックの暑熱対策のためサマータイム導入が提案されていたが、国民の健康への配慮が欠損していた。このため、分科会から、広く意見を表出することとなり、提言「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」を平成30年11月に発表、12月に公開シンポジウムを東京で開催した。サマータイム導入は技術的困難のため撤回されたが、生物学に基づいた学術的な見解を明らかにするため「学術の動向」2019年24巻8号に特集「生活時間と健康」を掲載した。令和2年になって分科会の開催ができない状態だが、継続が強く望まれるので、Zoom会議により次期への活動計画を討議する予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	（提言）平成30年11月7日「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」				
	開催シンポジウム等				
	平成30年7月14日公開シンポジウム「概日生理学の新たな地平」札幌 平成30年12月13日公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」東京				
開催状況	第一回分科会平成30年3月14日、第二回分科会平成30年7月14日(札幌) 第三回分科会平成30年10月21日(長崎)、第四回分科会平成30年12月13日、				
今後の課題等	地球の昼夜環境への適応の研究は基礎生物学と基礎・臨床医学の重要なテーマであり、人類の生活にも重大な影響をもつので更に分科会活動の継続が望まれる。				

⑫統合生物学委員会



統合生物学委員会					
委員長	巖佐 庸	副委員長	高木利久	幹事	山極壽一
主な活動	審議内容				
	・基礎生物学委員会の城石委員長と相談の上、ひきつづいて統合生物学委員会は基礎生物学委員会と合同で、春と秋の日本学術会議の総会時の昼食時間に開催した。 ・それぞれの委員会に属する分科会の開催状況、および、活動予定を報告した。 ・多くの分科会は、それぞれ活発に活動をしている。日本学術会議の予算がかぎられているため、多くの委員会が開催回数を減らしたりしている。他方で、オンラインでの委員の参加がより一般的になったこともあり、出席率が高まり議論が丁寧になされるようになったとの意見もあった。 ・大型研究計画の審査状況や会員・連携会員の交代や選出に関する議論もなされた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・それぞれの分科会が中心となりシンポジウムや報告・提言などの発出をおこなっている。これについてはそれぞれの分科会からの報告を見られたい。				
	開催シンポジウム等				
	予定されていたシンポジウムでコロナ感染症蔓延のために中止となったものもあった。				
開催状況	令和元年10月まで総会の時ごとに、基礎生物学委員会との合同で統合生物学委員会を開催してきた。しかし令和2年4月の総会がコロナウイルス蔓延のため延期になり、7月にも短くなったこともあり、合同委員会は取りやめ、必要な意見交換はメール審議に変更した。				

今後の課題等	・ 本年 10 月から第 25 期になり、委員も入れ替わるが、可能な限り総会の際に基礎生物学委員会・統合生物学委員会の合同会議を開催する希望である。
--------	--

統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会					
委員長	松浦啓一	副委員長	大路樹生	幹事	窪川かおる
主な活動	審議内容				
	平成 28 年 5 月 17 日に発出した提言「国立自然史博物館設立の必要性」のフォローアップ活動を行った。また、大学の学術標本や資料について調査した結果、全体的に危機的な状況にあることが判明した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 9 月 24 日に開催された日本地質学会（山口）において「大学・博物館における学術標本の未来 ―人口減少・災害多発社会における標本散逸問題を考える―」と題するトピックセッションを学術会議の後援を得て行った。				
開催状況	分科会を令和元年 12 月 10 日に学術会議において開催した。				
今後の課題等	第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2017）に動物科学分科会等と共同で「国立沖縄自然史博物館の設立ー 東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現」を提案し採択されたが、この実現のため今後も活動を推進する必要がある。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会					
委員長	吉田 丈人	副委員長	北島 薫	幹事	福井 学、森 章
主な活動	審議内容				
	IPBES、IPCC、Future Earth などの生態科学に関する国際動向について、環境省自然環境局および JST 研究開発戦略センターなどの関係者とともに、意見交換を行った。また、国際動向に貢献する生態科学者の実態や次世代の生態科学者の人材育成に関して議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	令和元年 12 月 16 日、令和 2 年 9 月（予定）
今後の課題等	国際動向に関する審議を受けて、同内容に関する公開シンポジウムを企画していたが新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。 今期は、前期に表出された報告「生態学の展望」のフォローアップとして、大型研究計画や国際動向への貢献に関する議論を進めることができた。一方で、十分に議論できなかった内容が今後の課題として残った。

基礎生物学・統合生物学委員会 ワイルドライフサイエンス分科会					
委員長	平田聡	副委員長	湯本貴和	幹事	村山美穂
主な活動	審議内容				
	2019 年 12 月 3 日に分科会を開催し、野生動物管理システムの構築と人材養成に関して議論をおこなった。環境省から 2 名をオブザーバーとして招聘し、行政との連携について現状と今後の課題について整理した。今後の展開に向けて、研究者と行政機関との更なる情報交換が必要となる点について明確にすることができた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	対象期間中に該当なし				
	開催シンポジウム等				
	対象期間中に該当なし				
開催状況	2019 年 12 月 3 日				
今後の課題等	24 期の総括としては、本分科会がエンドースして京都大学野生動物研究センターから提出したマスタープラン 2020 が学術大型研究計画に採択されるなど、今後の方向性を定めることができた。今後の課題として、野生動物管理システムの構築と人材養成に関して行政との更なる連携が必要である。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 進化学分科会					
委員長	深津武馬	副委員長	長谷部光泰	幹事	岩崎渉
主な活動	審議内容				
	なし。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				

	開催シンポジウム等
	計画したが実施せず。
開催状況	審議内容：分科会を開催予定であったが、新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言などの影響で委員の学務などの負担が大きくなったことから、開催を来年度に延期した。今後、コロナ下における分科会の在り方、提言について検討していきたい。 開催シンポジウム等：関連研究者が会する進化学会大会での公開シンポジウム開催を企画したが、新型コロナウイルス感染予防のため、大会が中止となり、公開シンポジウムも開催することができなかった。
今後の課題等	新型コロナウイルス流行下での活動について、オンライン対応を軸に検討を行なっている。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会 行動生物学分科会					
委員長	辻 和希	副委員長	岡ノ谷一夫	幹事	友永雅己
主な活動	審議内容				
	国民の科学リテラシー向上と行動生物学、行動生物学における新技術学際的交流と行動生物学に関して、メールで議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	2020年3月に開催予定だったシンポジウム「動物の意図共有と協力行動」は中止された。				
今後の課題等	中止されたシンポジウムのウェブ開催が検討されたが日程調整が困難だった				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同 バイオインフォマティクス分科会					
委員長	有田正規	副委員長	岡田眞里子	幹事	諏訪牧子，高木利久
主な活動	審議内容				

	データ戦略に関する提言，生物物理額「分科会との合同公開シンポジウム，バイオインフォマティクス・スキル標準，生物遺伝資源データのトレーサビリティ，
	意思の表出（※見込み含む）
	提言「持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて」の表出
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「新たな発見をもたらす科学における計測と予知・予測」平成 30 年 8 月 31 日，公開 シンポジウム 「次世代統合バイオイメージングと数理 の協働の展望」（令和元年 3 月 23 日より延期のまま）
開催状況	第一回分科会平成 30 年 4 月 24 日，第二回分科会令和元年 12 月 6 日
今後の課題等	分科会メンバーの増員，バイオインフォマティクス分野の振興

⑬農学委員会



農学委員会					
委員長	大杉立	副委員長	小田切徳美	幹事	経塚淳子、仁科弘重
主な活動	審議内容				
	・25期会員・連携会員の推薦 ・マスタープラン 2020 における農学分野の大型研究計画の取りまとめ ・提言等の発出に伴う審議 ・日本農学アカデミーとの連携強化の取り組み				
	意思の表出（※見込み含む）				

	・提言 3 件：応用昆虫学分科会、林学分科会、農学分野における名古屋議定書関連検討分科会 ・報告 3 件：農学分科会、農業経済学分科会、土壌科学分科会 ・記録 1 件：遺伝子組換え作物分科会
	開催シンポジウム等
	・当該委員会が主催：1 件 ・当該委員会所属分科会が主催：11 件
開催状況	平成 29 年 10 月 4 日、平成 30 年 4 月 4 日、同年 8 月 9 日、同年 10 月 3 日、平成 31 年 4 月 24 日、令和元年 10 月 16 日開催。
今後の課題等	新型コロナウイルス感染拡大で対面での委員会、シンポジウムなどが自粛されたため、活動が停滞気味であった。オンラインでの会議、シンポジウム開催を積極的に行い、また、対面での会議等での感染対策を十分取ること、従来の活動内容を確保する必要がある。食料科学委員会とともに、日本農学アカデミーに加えて、日本農学会および（公財）農学会との連携も強化する必要がある。

農学委員会 植物保護科学分科会					
委員長	松本 宏	副委員長	上田 一郎	幹事	西澤 洋子
主な活動	審議内容				
	・分科会主催および合同の公開シンポジウムの開催について ・マスタープラン 2020 への応募について ・次期会員および連携会員の推薦について ・関連学会との連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	令和年 11 月 30 日、東京大学において関連 5 学会の連合体である日本植物保護科学連合との共催で公開シンポジウム「持続可能な百寿社会に貢献する植物保護科学」を開催した。				
開催状況	令和年 11 月 30 日、第 24 期第 4 回分科会を開催し、上記について審議をおこなった。関連学会との連携の下でシンポジウムを毎年開催した。				
今後の課題等	これまで毎年開催してきたシンポジウムの成果をもとに第 25 期当初における意志の表出を目指して検討する。				

農学委員会・食料科学委員会合同 I U S S 分科会					
委員長	南條正巳	副委員長	犬伏和之	幹事	山本洋子
主な活動	審議内容				
	国際土壌科学連合（IUSS）中間会議（令和2年8月30日～9月4日，イギリス，グラスゴー）へ2名の代表派遣を行うこととなったが，その後オンラインに変更となり、日程が同年11月18～23日に決定した。「国際土壌の十年」および「IUSS 百周年」における企画の一つである IUSS 名誉会員（国内選出3名）へのインタビュー資料の収集に協力した。以上，メールを通じて進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和元年9月2日に実施した公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標（SDGs）-アフリカの土・市街地の土-」（土壌科学分科会と合同，会場：日本学術会議講堂）に関する開催概要を「土壌の物理性」（土壌物理学会）と「日本土壌肥料学雑誌」（一社：日本土壌肥料学会）に資料として掲載した。				
開催状況					
今後の課題等	IUSS における国内からの役員（会長他9名）の活動支援等				

農学委員会 農学分科会					
委員長	大杉立	副委員長	位田晴久	幹事	片岡圭子、下野裕之
主な活動	審議内容				
	土地利用型農業に貢献できる農学の役割等に関する議論を一層深め、学術的観点からの発信を行うために、委員及び外部専門家と意見交換を行い、報告として取りまとめた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「日本における農業資源の潜在力を顕在化するために生産農学が果たすべき役割」（令和2年8月表出予定）				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	平成 30 年 1 月 30 日、同年 4 月 27 日、同年 9 月 13 日、同年 11 月 19 日、令和元年 6 月 21 日、同年 12 月 9 日、令和 2 年 2 月 6 日開催。
今後の課題等	報告を更に発展させて提言として表出することが必要。

農学委員会 農業経済学学科会					
委員長	小田切徳美	副委員長	立川雅司	幹事	清原昭子、納口るり子
主な活動	審議内容				
	・「農業経済学の新しい分析力を考えるーイノベーション下のデータビリティ；公的統計と個別企画調査ー」をテーマに掲げ、大きな技術変革の時代において、「公的統計」や「個別企画調査」の可能性や課題を検討した。 ・特に、データの収集、保管、分析、破棄に至る「倫理」の問題について、具体的な検討課題を整理し、関連学会と共有化を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和元年 12 月 27 日 令和 2 年 9 月 16 日（予定）				
今後の課題等	「（報告）農業経済学教育のあり方」を発し、関連学会に共有化できたことは 24 期の成果である。その次の課題（農業経済学の新しい分析力を考える）については、意思の表出はできなかったが、検討によって得られた内容に関して、関連学会との共有化をさらに進めたい。				

農学委員会 農業生産環境工学科会					
委員長	仁科弘重	副委員長	大政謙次	幹事	北宅善昭、荊木康臣
主な活動	審議内容				
	設置している 5 つの WG（①フェノタイピング植物工場 WG、②都市農業 WG、③生態系・環境モニタリング WG、④気象環境 WG、⑤環境・エネルギー WG）の活動内容を審議し、④の WG に関連するシンポジウムと、②と⑤の WG に関連するシンポジウムを開催し、成果を発信した。マスタープラン 2020 大型研究計画については、2 件を提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	分科会としての意思の表出は、第 24 期では見送り、次期で行う。そのため、本期では各WGが公開シンポジウムを開催し、研究成果の蓄積、発信を行う。
	開催シンポジウム等
	令和元年 10 月 30 日「気候変動適応に関する農業分野（民間）の取り組み」 令和 2 年 9 月 30 日「都市農業における資源循環や効率的なエネルギー利用の可能性」※W e b 開催 第 24 期中には、シンポジウムを計 4 回開催した。
開催状況	分科会を、1 回開催した（令和 2 年 9 月 18 日※W e b 会議）
今後の課題等	地球温暖化に伴う環境変動が顕著になっており、環境に適応する農業生産、環境を調節する食料生産の役割が大きくなっている。第 25 期でも学術及び社会に貢献する成果を出す。

農学委員会 地域総合農学分科会					
委員長	宮崎 毅	副委員長	小田切 徳美	幹事	大黒 俊哉 武藤 由子
主な活動	審議内容				
	3 年間の分科会活動で、地域総合農学の課題を大きく変更し、ICT の社会実装へ向けての課題を検討する方向へシフトした。特に、令和 2 年 6 月 12 日に公開シンポジウム「農業農村地域での ICT 社会実装における課題」開催へ向けて、準備を進めた。分科会への参考人として、新潟市と協力して ICT 社会実装事業に取り組んでいる荒木康男氏（白金カルチャー株式会社社長）の招致を決定し、公開シンポジウムでの講演者と時間配分の決定など、準備が完了していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、分科会および公開シンポジウムの開催を断念した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無し				
	開催シンポジウム等				
	無し（中止）				
開催状況	令和 2 年 6 月 12 日第 5 回分科会開催を中止				
今後の課題等	必要に応じてオンライン分科会を招集する。				

農学委員会 林学分科会					
委員長	丹下健	副委員長	杉山淳司	幹事	田中和博・五十田博
主な活動	審議内容				

	木材利用促進と森林資源造成の両立に向けた課題整理と、課題解決に向けた関係省庁への提言に向けた審議を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	提言「地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進」を令和 2 年 6 月 19 日に公表した。
	開催シンポジウム等
	令和元年 9 月 30 日に、上記提言作成に向けた公開シンポジウム「林業と建築における木材利用 ―川上から川下までの現状と課題―」を開催した。
開催状況	提言の作成等に関して、メール審議を行った。
今後の課題等	林業の強化に向けた審議を 25 期に引き継ぐ予定である。

農学委員会 応用昆虫学学科会					
委員長	小野 正人	副委員長	池田 素子	幹事	嶋田 透、大門 高明
主な活動	審議内容				
	（１）「学士課程における昆虫学教育のあり方」に関する提言（または報告）の発出について審議。 （２）第 288 回幹事会にて承認された公開シンポジウム「インセクトワールド ―多様な昆虫の世界 II―」（令和 2 年 6 月 27 日に東京大学にて開催予定）について審議（COVID-19 拡大予防の観点からその実施の可否をメールで議論）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	（１）（提言）「衛生昆虫学による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」を発出。 （２）上記を踏まえて「学士課程における昆虫学教育のあり方」に関する提言（または報告）の発出について、第 25 期に引き続き審議。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「インセクトワールド ―多様な昆虫の世界 II―」（共催：日本昆虫科学連合）は、COVID-19 の状況を鑑み中止。改めて令和 3 年 6 月下旬を目途に開催を計画。				
開催状況	対面の分科会は開催できなかったが、随時メールにて委員間の意見交換を行っている。				
今後の課題等	（１） 公開シンポジウム「インセクトワールド―多様な昆虫の世界 II―」の開催。				

	(2)「学士課程における昆虫学教育のあり方」に関する提言（または報告）の発出。
--	---

農学委員会 土壌科学分科会					
委員長	南條正巳	副委員長	犬伏和之	幹事	山本洋子
主な活動	審議内容				
	メールを通じて今期の主要審議事項である「市街地土壌（後に都市域土壌と名称を変更）」に関する検討を進めた。第24期学術の大型研究計画に関するマスタープランの計画番号48「東日本大震災からの復興農学拠点」を作成した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「都市域土壌の現状と課題」を取りまとめつつある。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年9月2日に実施した公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標(SDGs)-アフリカの土・市街地の土-」(IUSS 分科会と合同、会場：日本学術会議講堂)に関する開催概要を「土壌の物理性質」(土壌物理学会)と「日本土壌肥科学雑誌」(一社：日本土壌肥料学会)に資料として掲載した。				
開催状況					
今後の課題等	「土壌保全基本法」「土壌教育」他に関する検討				

農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会					
委員長	佐藤文彦	副委員長	大杉 立	幹事	石井哲也、立川雅司
主な活動	審議内容				
	ゲノム編集生物に関する規制、アウトリーチ活動、リスクコミュニケーション、表示問題などに関して議論を行った。今期の提言発出は困難と考えられることから、論点を審議記録とし、次期に引き継ぐこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	令和元年10月5日「食の安全と社会；科学と社会の対話」を食の安全分科会、獣医学分科会と共同主催
開催状況	平成元年12月24日（第6回分科会）開催。
今後の課題等	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今期の総括と次期への論点整理が遅れた。

農学委員会・食料科学委員会合同 農学分野における名古屋議定書関連検討分科会					
委員長	大杉立	副委員長	三輪清志	幹事	経塚淳子・廣野育生
主な活動	審議内容				
	名古屋議定書のなかでのデジタル配列情報の取り扱い等に関する国際的動きに対応するために学術分野としての議論を行い、緊急提言を表出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデジタル配列情報の取り扱いについて」（平成31年1月表出）				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	平成29年11月9日、同年11月21日、令和2年2月5日開催。				
今後の課題等	国際的動きに迅速に対応する必要がある。				

農学委員会・食料科学委員会合同 C I G R分科会					
委員長	野口 伸	副委員長	澁澤 栄	幹事	清水浩・高山弘太郎
主な活動	審議内容				
	日本学術会議主催予定の CIGR2022 世界大会 [The XX CIGR World Congress 2022] (京都) [令和4年12月] に関するロードマップおよび基調講演者やプログラム等につき準備活動強化についての審議（ウェブサイト： http://cigr2022.org/ ）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今年度は無し				
	開催シンポジウム等				

	今年度は無し
開催状況	令和2年1月10日（第4回） 令和2年9月17日（第5回）※オンライン
今後の課題等	CIGR2022 世界大会 [The XX CIGR World Congress 2022] 開催に向けた準備活動を推進する

基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS分科会					
委員長	上田 一郎	副委員長	甲斐 智恵子	幹事	桑野 剛一
主な活動	審議内容				
	総合微生物科学分科会、病原体分科会と合同で、微生物学関連学会が加盟する微生物学連盟と共に、取り組むべき課題を議論した。また国際微生物学連盟（IUMS）理事特任連携会員中川一路京大教授を通じてコロナ感染症下における国際微生物会議2020の開催準備状況について報告を受けた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	日本微生物学連盟フォーラムとして「Remarkable diversity and uniformity of viruses, 様々なウイルスの世界」を2019年10月31日に開催した。				
開催状況	令和2年4月24日メール持ち回り審議。				
今後の課題等	国際微生物学連盟の活動における日本側の取り組みについて論議する。				

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	甲斐 知恵子	幹事	古谷 研・熊谷日登美
主な活動	審議内容				
	・2020 マスタープランへ5分科会の共同提案について ・「未来からの問い2020」の農学関連事項の記載について ・日本農学叢書の企画について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし（COVID-19のため、合同シンポジウムの中止決定）				
開催状況	第24期・第6回 平成31年10月16日(水) 第24期・第7回 令和2年9月（予定）				
今後の課題等	・農学・食料科学委員会合同の市民公開シンポジウムの再開・継続方法の検討 ・分科会の多様な開催形態の工夫と活動レベル向上 ・学協会（農学アカデミーなど）との連携				

食料科学委員会 水産学分科会					
委員長	古谷 研	副委員長	萩原篤志	幹事	潮 秀樹、都木靖彰
主な活動	審議内容				
	・前年度に引き続き中長期的な水産資源利用について、1) 国家管轄権外区域における海洋生物多様性、2) 海洋保護区、3) 水産統計の現状と課題を中心に検討。 ・中長期的な水産資源利用について第 24 期の活動を総括して、次期に向けた課題を整理。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」（令和元年 12 月 19 日、日本学術会議講堂）を開催。				
開催状況	令和元年 12 月 19 日、令和 2 年 2 月 28 日、同年 7 月 17 日				
今後の課題等	中長期的な水産資源利用のあり方に関する意思表出（次期を予定）に向けた検討。				

農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS 分科会					
委員長	加藤久典	副委員長	藤原葉子	幹事	熊谷日登美
主な活動	審議内容				
	2021 年 9 月 14 日から 19 日に東京で開催される第 22 回 IUNS 国際栄養会議（ICN）の準備について審議を続けている。ICN と同年の東京栄養サミットとの連携についても検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和元年 9 月 17 日（火）16:00～18:00 日本学術会議 令和 2 年 5 月 18 日（月）13:00～14:15 ウェブ会議（ZOOM）				
今後の課題等	第 22 回 ICN の成功に向けてさらに検討を続ける。IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップの 4 回目の開催に向けた検討を行う。				

食料科学委員会 畜産学分科会					
委員長	眞鍋 昇	副委員長	吉澤 緑、柏崎直 巳	幹事	枝重 圭祐、木村 直 子、遠野 雅徳
主な活動	審議内容				
	「地球規模で家畜伝染病・人獣共通感染症が蔓延する中でのアニマルウェル フェアに準拠した家畜飼養衛生管理に関わる現状と課題」に重点をおいた畜 産学の教育・研究の特性について記録取り纏めと成果公表を目指して審議を 深めた。併せて最先端学術成果を含む共用教科書の作成について審議した。 公開シンポジウムの開催、関連学会等との連携等について意見交換して順次 実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「静かに蔓延する家畜伝染病：持続可能な畜産物生産のための科学技術」と 題する報告を令和2年年度中の発出を目標とするとともに、今期と前期に本 分科会が主催したシンポジウム要旨を令和2年年度中に記録としてと りまとめる。				
	開催シンポジウム等				
	統御が困難な Classical Swine Fever が頻発している状況に対応して日本養 豚学会等と公開シンポジウム「養豚において現場で実践可能な最新技術・令 和1年10月24日」を共催し500名を超える聴衆から好評を得た。他に「食 の安全と社会科学と社会の対話・令和1年10月5日」を獣医学分科会、食の 安全分科会と共催し、オンライン公開シンポジウム「2030年に向けたこれか らの畜産学の方向性と最先端技術の展開・令和2年9月27日」を日本畜産学 会等と共催する。				
開催状況	2回開催した（令和1年12月26日、令和2年8月7日メール）				
今後の課題等	関連学協会の女性研究者活躍の支援と協働プロジェクトの一層の推進。				

農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	藤原 葉子	幹事	稲垣 賢二、西山 真
主な活動	審議内容				
	・農芸化学の視点から、生物多様性条約・名古屋議定書に関して討議 ・農芸化学分野における学術大型研究のあり方について議論 （農芸化学会から大型マスタープランへ4課題応募） ・サイエンスカフェおよび公開シンポジウム等の啓発活動について検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	・公開シンポジウム「染色体遺伝子の新たな姿とゲノム編集-生命のさらなる理解と医療・育種への展開-」（2020年3月26日に開催予定であったが中止、要旨集は発行） ・公開シンポジウム「変動する21世紀の社会で求められる農芸化学分野の研究、開発、人」（2020年3月26日に開催予定であったが中止、要旨集は発行） ・サイエンスカフェ「味を感じる仕組み・おいしさの科学」（2019年11月30日、東京）
開催状況	2019年9月24日（火）14:00～16:00 日本学術会議 2020年9月29日（火）14:00～16:00 ビデオ会議 開催予定
今後の課題等	・公開シンポジウムの共同主催を今後も積極的に行う。 ・日本農芸化学会が毎年実施している「化学と生物シンポジウム」を当分科会との共同主催とするよう働きかける。 ・サイエンスカフェの共催を、今後も積極的に行っていく。 ・農芸化学分野が抱える課題等について議論する。

農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	清水 浩	幹事	高山弘太郎, 安永円理子
主な活動	審議内容				
	1. マスタープラン2020, 日本の展望2020（仮称）について議論した。 2. 公開シンポジウムについて議論した。 3. 農業情報システム学分野に関連する10年後を見通したロードマップ作成と提言の作成について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「人口減少社会に対応した農業情報システム科学の課題と展望」を表出する。				
	開催シンポジウム等				
	令和2年9月9日に神戸大学にて公開シンポジウム「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」を主催予定であったが、コロナ禍の影響を鑑み中止とした。				
開催状況	第24期・第6回 令和2年1月29日 第24期・第7回 令和2年9月29日				
今後の課題等	提言「人口減少社会に対応した農業情報システム科学の課題と展望」（発出予定）のフォローアップ、ならびに農業情報システム学の深化と展開に関するシンポジウムの企画				

農学委員会・食料科学委員会合同 東日本大震災に係る食料問題分科会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	眞鍋 昇	幹事	中嶋康博・梅村恭子
主な活動	審議内容				
	・ 農水産業の現場における活動及び食品の流通から食卓までの安全の取り組みについて ・ 令和2年度開催の公開シンポジウムの企画について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	・ 公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2019」令和元年11月30日（福島大学）を主催。同内容を雑誌『アグリバイオ』に連載				
開催状況	第24期・第6回 令和元年11月30日（土） 第24期・第7回 令和2年9月7日（月）				
今後の課題等	東日本大震災による農水産業・関連産業の被災・復旧・復興に対する科学的な知見の理解醸成				

農学委員会・食料科学委員会合同 P S A分科会					
委員長	土屋 誠	副委員長	古谷 研	幹事	印東道子、大越和加
主な活動	審議内容				
	・ 東北大学より日本学術会議に対して依頼があった畑井メダル授賞候補者の選出に関して議論を行った(電子メールによる議論)。 ・ P S A 分科会において畑井メダル授賞候補者を選出し、会長に報告した。 ・ 次期 P S A 総会(中国開催)に向けての対応を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	・ 令和1年10月25日：P S A 分科会開催 ・ 令和2年3月、7月：P S A 役員会による P S A 総会の延期決定を受け、その情報を委員長より委員および事務局に連絡した(電子メールによる連絡)。				
今後の課題等	東北大学から依頼を受け、P S A 総会(太平洋学術会議)で授与する畑井メダルの授賞候補者選考に関する議論を進めた最初の期であった。今後、ますます				

	重要性を増す太平洋域の学術の発展について議論を継続する必要がある。
--	-----------------------------------

食料科学委員会 獣医学分科会					
委員長	高井 伸二	副委員長	杉山 誠	幹事	堀 正敏・芳賀 猛
主な活動	審議内容				
	・学術会議の使命を念頭に、獣医学が社会に果たすべき役割について議論し、関連学会と連携して「One Health」を基本理念にシリーズ化したシンポジウムを開催することとした。 ・令和元年度は、公開シンポジウム「食の安全と社会；科学と社会の対話」 http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/279-s-1005.pdf を 10 月 5 日に開催した。 医療・健康リスク情報発信分科会、食の安全分科会との合同で「アフリカ豚熱（ASF、旧名称：アフリカ豚コレラ）対策に関する緊急提言」を発信した。 令和 2 年度は 5 月 16 日に公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が生み出す感染症～」と分科会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期した。来期となるが、新型コロナウイルス感染症の話題を追加し、オンラインでシンポジウム等を年内に開催する予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「アフリカ豚熱（ASF、旧名称：アフリカ豚コレラ）対策に関する緊急提言」 令和 2 年（2020 年）4 月 16 日 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t288-2.pdf				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 10 月 5 日開催「食の安全と社会；科学と社会の対話」日本学術会議講堂				
開催状況	第 6 回 令和元年 10 月 5 日 第 7 回 令和 2 年 4 月 16 日 新型コロナウイルス感染症のため中止 第 8 回 令和 2 年 5 月 16 日 新型コロナウイルス感染症のため中止				
今後の課題等	One Health をテーマにシンポジウムを開催する予定である。				

農学委員会・食料科学委員会合同 食の安全分科会					
委員長	石塚真由美	副委員長	澁澤栄	幹事	芳賀猛・有路昌彦
主な活動	審議内容				
	以下の 3 つの観点から協議を行った。 1) 食の安全にかかわるシンポジウムの企画について 2) 提言に関する検討について				

	3) その他、食の安全にかかわる国内外の情勢について
	意思の表出 (※見込み含む)
	アフリカ豚熱 (ASF、旧名称：アフリカ豚コレラ) 対策に関する緊急提言を 危機対応科学情報発信委員会 医療・健康リスク分科会・食料科学委員会 獣 医学分科会と共同で発出した。
	開催シンポジウム等
	令和元年 10 月 5 日 食の安全と社会；科学と社会の対話
開催状況	第 6 回 令和元年 10 月 5 日 第 7 回 令和 2 年 1 月 31 日 第 8 回 令和 2 年 9 月 (予定)
今後の課題等	2 4 期に開催できなかったシンポジウムは 2 5 期に開催予定である (令和 2 年 11 月 One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す 感染症～、令和 2 年 12 月 5 日 食の安全と環境ホルモン)

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	甲斐知恵子	副委員長	菊池 章	幹事	岡部繁男、今井由美子
主な活動	審議内容				
	IUBMB分科会, IUPS分科会, IUPHAR分科会, ICLAS分科会, 形態・細胞生物医科学分科会, 機能医科学分科会, 免疫学分科会, 病原体学分科会, 神経科学分科会, 医学研究者育成検討分科会, の10の分科会の活動の確認を行った。基礎医学に関する学術基盤を整備すると共に, 国内外の関連学会と連携して基礎医学研究の発展を目指した研究報告や提言活動を進める方針を確認し議論を行った。また, 人材育成, 環境整備, 研究者コミュニティの連携, 周辺研究領域との融合研究の推進についても議論を行った。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	予定はない。				
	開催シンポジウム等				
	開催予定はない。				
開催状況	第3回委員会 (平成30年10月3日)、第4回委員会 (平成31年4月25日)を開催した。 3年間の活動としては、提言「生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデ				

	デジタル配列情報の取り扱いについて」(日本語版および英語版)を、基礎生物・統合生物、農学・食料科学委員会と合同で平成30年1月22日に公表。公開シンポジウム「Down to Earth - 大地に根ざす植物の生存戦略とその応用-」(平成30年8月10日(金)、東北大学青葉山コモンズ大講義室)を農学委員会とともに主催した。
今後の課題等	・新型コロナウイルス感染症によって及ぼされた学術の停滞や今後の学術に及ぼす影響、また学術の立場から何を行うべきかについての議論を継続する必要がある。特に基礎医学領域は、治療法・治療薬等の開発研究や宿主反応研究等の中心であり、またコロナ禍におけるメンタルヘルス対策も重要課題であることから、今後も関連分野と連携して議論を深め、必要に応じて提言等で発信する必要がある。 ・3年間の活動の中で、感染症、ワクチン、がん、免疫等は、社会としても重要関心事であり、正しい知識を社会に広めることは重要であるとの認識を共有した。今後の方策について、継続検討課題としたい。 ・中学・高校の理科教育において、基礎医学教育が十分とは言えないという認識を共有した。今後も教育内容についても関連機関と協力して継続的に検討し発信すべき課題である。また、免疫学の用語リストについては大幅な改訂の必要性を唱えたが、今後も継続的に取り組む。 ・基礎研究の研究費支援について、若手支援が拡大する一方でシニアの研究費獲得が難しい問題があり、継続検討課題とすべきである。 ・コロナ禍の影響も考え、国際会議や国際交流の推進方法についても検討課題とする。

基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会					
委員長	岡部繁男	副委員長	藤本豊士	幹事	渡辺雅彦、仲嶋一範
主な活動	審議内容				
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物医科学分科会と合同で、第11回形態科学シンポジウム(タイトル:生命科学の魅力を語る～高校生のための集い)を、令和元年10月22日北海道大学(札幌市)において開催した。令和2年8月20日に第12回形態科学シンポジウムを慶應義塾大学で開催する準備を進めていたが、Covid-19感染症拡大に伴い中止を余儀なくされた。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				

	第 11 回形態科学シンポジウム@北海道大学（令和元年 10 月 22 日）
開催状況	第 12 回形態科学シンポジウム開催に合わせ分科会の開催を計画していたが、Covid-19 感染症拡大に伴い中止した。今後の活動計画等については、随時電子メール等の方法によりに審議することとした。
今後の課題等	特になし。

基礎医学委員会 IUPS 分科会					
委員長	久保 義弘	副委員長	本間 さと	幹事	多久和 典子
主な活動	審議内容				
	1. 2021 年 8 月に北京（中国）にて開催予定だった国際生理科学連合（IUPS）のコンGRESS IUPS2021（Beijing）が、世界的な COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ 2022 年 5 月に延期されることが決定された。それに伴い、2020 年 8 月に天津（中国）にて開催予定だった国際プログラム委員会（久保委員長が理事として出席予定）も 2021 年に延期された。そのため、特別講演者等の最終決定も延期され、またシンポジウムの公募も仕切り直しとなった。公募が再開されたら、日本の生理学のプレゼンスを示すことができるよう、積極的な提案を行っていく。				
	2. IUPS が作成する “Global status report on physiology” への掲載情報として、日本の生理科学研究に関する現況の報告書を取りまとめ、IUPS 本部宛に提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	ありません。				
	開催シンポジウム等				
	ありません。				
開催状況	第 24 期第 3 回分科会委員会を日本生理学会大会（別府市、2019 年 3 月）時に開催する予定だったが、COVID-19 感染拡大により大会自体が誌上開催となったため中止した。Web 会議として、2020 年 8 月 27 日に開催する予定である。				
今後の課題等	IUPS2022（Beijing）の開催を成功に導くための貢献を継続する。				

基礎医学委員会 免疫学分科会					
委員長	小安重夫	副委員長	東みゆき	幹事	反町典子、吉村明彦
主な活動	審議内容				

	高校理科教育における現状として、免疫学は多くの生徒が選択する基礎生物(2単位)に含まれ、十数ページが免疫学の記述に割かれている。2021年の教科書大規模改定、および新規指導用要領作成においては、思考力重視、暗記内容の削減の方針が打ち出され、その流れの中で各分野での重要語の選定が進められてきた。しかしながら日本学術会議の免疫学用語リストは、現代の免疫学の重要語とは乖離したものであることから、鏑田委員を中心としたワーキンググループによって免疫学重要語原案が作成され、免疫学分科会承認のもと、小安委員長から生物科学学会連合（以下生化連）中野委員長へ提出されていた。しかしながらすでに改訂が進んでおり、今回の改訂には取り入れ困難との状況が判明したことが報告された。今後の対応策が協議され、日本免疫学会を窓口として免疫学分科会と日本免疫学会研究構想推進委員会の合同委員会が情報共有を行いながら緻密に対応していくことで合意した。また、重要な点として、こうした教育現場への免疫学知識の適切なフィードバックについては第24期だけにとどまらず継続的に取り組んでいく必要性が強調され合意を得た。そのための具体的方策として、日本学術会議、生化連との連携組織図、用語等改訂にかかる導線組織図を作成し、免疫学分科会および免疫学会理事会とで共有する方向で進めることとした。同時に、高校教育における免疫学教育方針の意思決定の場に携わっている免疫学分科会会員あるいは免疫学会員がいないという問題点が指摘され、本件についても積極的に取り組むことを確認した。 意思の表出（※見込み含む） 上記テーマに関して提言を行うことが必要ではないかとの意見だされ、今後検討していくこととした。 開催シンポジウム等 なし
開催状況	令和元年12月11日に日本免疫学会総会・学術集会に合わせ、アクトシティー浜松 コングレスセンターにて開催した。出席者16名、欠席者10名。その後令和2年1月6～7日に委員長・副委員長・幹事のメール会議を開催し、議事録をとりまとめた。
今後の課題等	今期は大きく3つの課題に関して議論した。 1) ワクチンやがん免疫の議論は一般の人々が関心を持つ分野であり、免疫学分野の重要性を社会に向かって発言することの重要性が共有された。 2) 若手支援が拡大する一方、シニアクラスが研究費を取得しにくくなっている問題点も指摘された。それに付随した問題として、若手採択率が高くなっているが、資金だけ提供して若手を教育できているかという点が指摘された。また、若手研究者の優遇があったとしても、特に地方大学においては大学院生を含む若手研究者の確保が著しく困難な状況が報告され、若い研究者がビジョンを持たず、将来が見えない現状では、日本の基礎研究の将来が極めて不安定であるとの指摘があった。

	3) 人材育成の観点から、高校教育の生物学のなかの免疫の内容は検討する必要があることから、今後生化連と免疫分科会との間で、窓口の明確化を進めることとした。 次期の免疫学分科会でも引き続きこれらの課題を議論して行く予定である。
--	--

基礎医学委員会 神経科学分科会					
委員長	伊佐 正	副委員長	柚崎通介	幹事	大木研一、平井宏和
主な活動	審議内容				
	令和元年 11 月 9 日の分科会ではマスタープラン 2020 を提案（採択）、アディクション分科会提案の提言および市民公開シンポジウムを開催することについて審議し承認された。令和 2 年 6 月 1 日（Web 会議）では、次期に向けて、神経倫理について検討していくことについて審議を行い、了承された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	アディクション分科会と連携して「アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言」を表出。				
	開催シンポジウム等				
	11 月 9 日（土）に日本学術会議講堂にて脳とこころ分科会との合同公開シンポジウム「スポーツと脳科学」開催。令和 2 年 4 月 3 日（金）に「現代社会とアディクション」を開催することを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。				
開催状況	分科会：令和元年 11 月 9 日に脳とこころ分科会と合同分科会を共催。令和 2 年 6 月 1 日（Web 会議）に脳とこころ分科会、アディクション分科会と合同会議を開催。公開シンポジウム：令和元年 11 月 9 日開催。令和 2 年 4 月 3 日（中止）。令和 2 年 6 月初旬から 6 月 1 日の合同分科会での議論を受けて、臨床医学委員会、神経科学分科会、脳とこころ分科会、アディクション分科会の各委員長で新型コロナ感染拡大に伴う研究停滞、大学院教育、メンタルヘルスの課題について Web 会議を数回開催。日本脳科学関連学会連合からの提言表出に連携した。また、幹事会に議論を挙げた。				
今後の課題等	神経倫理。新型コロナ感染への対策。日本脳科学関連学会連合将来構想委員会との連携。				

基礎医学委員会 IUBMB分科会					
委員長	菊池章	副委員長	中野明彦	幹事	水島昇、五十嵐和彦
主な活動	審議内容				

	IUBMB の地域連合として FAOBMB(アジア・オセアニア生化学分子生物学連合)があるが、2018 年 9 月に菊池が FAOBMB の President Elect に選出され、2020 年 1 月から President に就任することが決定した。これを受けて、IUBMB 分科会として FAOBMB との交流を活発にすることが確認された。幹事の五十嵐が 25 期、26 期の第 2 部会員となるので、今後は五十嵐を中心に本分科会の活動を行う。
	意思の表出 (※見込み含む)
	該当なし。
	開催シンポジウム等
	第 28 回 FAOBMB Conference が 2020 年 6 月 11 日～13 日にスリランカで開催され、菊池が総会に出席する予定であったが、COVID-19 の影響により中止になった。FAOBMB Executive Committee メンバーと 24 か国の代表者によるリモート会議を 8 月 19 日に行う予定である。
開催状況	第 93 回生化学会大会が 2020 年 9 月 14 日～16 日に開催されるが、その期間中に分科会を開催する予定である。
今後の課題等	2027 年 (令和 9 年) 以降の IUBMB Congress の日本での開催について。

基礎医学委員会 IUPHAR 分科会					
委員長	飯野正光	副委員長	吉岡充弘	幹事	池谷裕二 上田泰己
主な活動	審議内容 ●日本薬理学会国際対応委員会と連携し IUPHAR 加盟学会との学術交流を推進。 中国：第 93 回日本薬理学会年会 (2020 年 3 月) で合同シンポジウムを開催するため準備を進めたが、COVID-19 問題で中止となった。 豪州・ニュージーランド：2019 年 11 月に ASCEPT 年会に講師派遣 (東大・池谷裕二教授)。第 93 回日本薬理学会年会 (2020 年 3 月) へ ASCEPT 講師 (Monash 大学・Denise Wootten 准教授) の招聘予定だったが、COVID-19 で翌年度へ。 米国：ASPET 年会 (2020 年 4 月) へ講師派遣 (金井好克教授) 予定だったが、COVID-19 のため翌年度繰り越し。 APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists) (President:三品昌美委員) 第 14 回会議が本年 5 月に台北で開催予定だったが、COVID-19 により 2021 年 7 月に延期された。 ●IUPHAR 次席副会長・金井好克教授 (阪大) を特任連携会員に推薦し承認された。				

	IUPHAR 理事会（2019 年 12 月 3-4 日、インド、ハイデラバードで開催、及び定例ウェブ会議 8 回）に金井委員が参加した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2020 年 3 月 17 日に、日本薬理学会国際対応委員会と合同で開催予定であったが、COVID-19 感染拡大を受け会議は中止。必要事項に関してメール審議を行った。
今後の課題等	今期中に IUPHAR の最重要会議である第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議が、2018 年 7 月 1 日から 6 日まで京都国際会館において学術会議と組織委員会により共同開催された。国内外から 4,500 名を超える参加者があり、好評を得て、我が国の薬理学のプレゼンスを示すことができた。今後は、この成功をバネとし、COVID-19 の影響を乗り越えて IUPHAR および関係学会との国際交流をさらに推進して行く。また、2027 年は、日本薬理学会創立 100 周年にあたり、これを記念して国際交流をさらに深める事業の準備を進めていく。なお、IUPHAR では現在組織改編改革が行われつつある。我が国のイニシアティブを維持向上させるため、IUPHAR への働きかけを継続し、また施策を検討していく。

基礎医学委員会 ICLAS 分科会					
委員長	入来篤史	副委員長	吉木 淳	幹事	續 輝久
主な活動	審議内容				
	本年度より 4 年間の ICLAS 新執行体制に、日本（本分科会）より副理事長を出すとともに、理事 1 名が追加されることとなり、グローバル視点に立った国内外関連学会等との協働を促進する体制が整った。このために、JALAS（日本実験動物学会）を中心に国内の諸学会の動物実験ガイドラインの集約を図る動きを始める支援をするとともに、国際的にも ICLAS を中心に、日本をモデルとして、同様の動きを開始した。また、実験動物管理側と使用側それぞれの学協会の相互連携強化などを JALAS と協働して推進することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	な し				
	開催シンポジウム等				
	な し				

開催状況	な し（下記の動物実験の学術会議ガイドラインの改定について、関係分科会と合同会議開催の可能性を探ったが、日程的制約から次期に申し送ることとした）
今後の課題等	現在の動物実験に掛かる学術会議ガイドラインが、2012年の ICLAS-CIOMS ガイドラインに対応した改訂を行っていないので、次回の動物愛護法改定に向けて、そのアップデートを関係分科会と協働して策定すべき喫緊の必要性がある。

基礎医学委員会 病原体学分科会					
委員長	桑野剛一	副委員長	岡本 尚	幹事	鎌倉光宏、赤池孝章
主な活動	審議内容				
	本分科会と日本微生物学連盟理事会等は新型コロナウイルス感染症に関して、微生物学的な観点から審議を行い、声明（ http://fmsj.umin.jp/news200529.html ）を発表した（令和2年5月29日）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	新型コロナウイルス感染症のため開催なし。				
第24期（3年間）における成果・課題等	本分科会は提言「我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育」を公表（令和元年5月20日）した。および、応用昆虫学分科会との共同発出提言「衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」を平成31年4月9日に公表した。一方、課題は今般の新型コロナウイルス感染症のような国民の健康を脅かすアウトブレイクについて、迅速に状況を把握・審議するシステムの構築が必要である。				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	神尾 陽子	副委員長	名越 澄子	幹事	水口 雅 光富 徹哉
主な活動	審議内容 ● 20 分科会（うち 7 分科会は臨床医学委員会以外の分野別委員会と合同設置）が設置され、各分科会において優先課題について審議を行った。今期の成果の社会への発信は 5 件の公開シンポジウムの開催によって行われた。また今期最終年度には臨床医学委員会 2 分科会と基礎医学委員会の 1 分科会との合同で発出した「アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言」（令和 2 年 4 月 15 日）は複数メディアに取り上げられ、国会議員との意見交換はその後も続いている。その他、令和 2 年 8 月 11 日付けで発出された健康・生活科学委員会の合同での提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基				

	盤づくりと教育の重要性」の他、現在、複数の分科会が作成した提言が査読を受けているところである。 ● 分野横断的活動としては、科学者委員会（男女共同参画、学協会連携、ゲノム編集）および課題別委員会（認知障害、自動運転、スポーツの価値の普及、オープンサイエンス）においても、臨床医学の観点から臨床医学委員会委員が精力的に学術フォーラムや提言執筆に貢献した。 ● 今期は、臨床医学に関連した重大な出来事（研究不正防止目的の臨床研究法の施行、新専門医制度に伴う地域・診療科格差是正の問題、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う予防制御、メンタルヘルス問題など）が起きた。これらに対して、迅速に日本学術会議内外との連携を強め、臨床医学の望ましい発展のための問題は正や、社会貢献のためのアクションを行った。例として、①臨床医学委員会内にワーキンググループを設置し、「専攻医募集シーリングによる研究力低下に関する緊急提言」を発出し（令和 2 年 1 月 15 日）、2021 年度専攻医募集の見直しに導くことができた。②ウィズコロナに伴い対応が必要なメンタルヘルスの問題への科学的根拠を持った対応については、分科会の議論から発展し、日本脳科学連合から「緊急提言：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係るメンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」を発出し（令和 2 年 6 月 25 日）、各メディアに取り上げられた（http://www.brainscience-union.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/55efa57a57fa6425faecee99e9a7527.pdf）。③日本学術会議特設 HP に「メンタルヘルス」をテーマに公開対談が掲載された。
	意思の表出（※見込み含む）
	特に予定なし。
	開催シンポジウム等
	令和 2 年 4 月に予定していた公開シンポジウム（現代社会とアディクション）は新型コロナ感染予防の観点から中止となった。
開催状況	第 1 回臨床医学委員会：平成 29 年 10 月 4 日開催。第 2 回臨床医学委員会：平成 30 年 10 月 4 日開催。第 3 回臨床医学委員会：平成 31 年 4 月 24 日開催。他、メールの意見交換を通して情報共有を行った。
今後の課題等	ポストコロナに向けて研究のあり方およびメンタルヘルス対策を内外に問う議論は、臨床医学委員会分科会に端を発し、部を超えた横断的な議論を踏まえて提言につなげられるように、現在、準備中である。

臨床医学委員会 出生・発達分科会					
委員長	神尾 陽子	副委員長	水口 雅	幹事	船曳 康子
主な活動	審議内容				
	臨床医学の小児医学、児童精神医学、産婦人科の多領域に加え、第一部の心理学、教育の領域における専門家から構成される当分科会では、これからの発達障害に関連する出生から発達にかかわる現状の問題や今後の研究上の課題を議論した。平成 30 年 12 月制定された「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律（成育基本法）」のもとに今後実施されることが予測される諸施策、事業と科学的エビデンスのギャップを埋めるために、発達障害を含む成育医療の充実に資する提言案を作成し、臨床医学委員会、第二部会からの助言を受けて、改定を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在、幹事会の査読中。今期内に提言を表出する見込み。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回分科会：平成 30 年 7 月 3 日開催。他、メールの意見交換、情報共有多数。				
今後の課題等	表出後、関連省庁、関連医師会や NPO 法人等、国会議員への説明や、関連学会等の主催するシンポジウムで紹介するなど、社会全体に広く問題意識を共有し、活発な議論を継続する計画を検討している。				

臨床医学委員会 腫瘍分科会					
委員長	村川 康子	副委員長	村上 善則	幹事	木村 敏明 清宮 啓之
主な活動	審議内容				
	● 当分科会は持続可能ながん治療の観点からの問題点を分野横断的に話し合うため、第二部のみならず第一部の先生にもご参加頂き、また経済学、文化人類学的な観点からのご討議も頂くべく、特任連携会員としてお二人の先生にもご参加頂き、15名の構成員となった。 ● 2 回の会合での話し合いに基づき、第 60 回日本肺癌学術集会において肺癌学会と日本学術会議の共催シンポジウムを下記の内容で行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特に予定なし。				

	開催シンポジウム等
	平成元年 12 月 7 日 （大阪） 「行動経済学・文化人類学・医療経済学から見たがん治療」 1）基調講演：肺癌における積極的がん治療から緩和治療まで俯瞰して 2）行動経済学から見たがん治療 3）文化人類学からみたがん治療 4）医療経済学からみたがん治療
開催状況	第 1 回腫瘍分科会：平成 30 年 6 月 28 日開催 第 2 回腫瘍分科会：令和元年 7 月 29 日開催 他、メールの意見交換を通して情報共有を行った。
今後の課題等	患者の高齢化、高額医療費の問題など、医学のみでは解決不可能な問題が多く、今後 がん治療を分野横断的な視点から考えてゆくことは非常に重要と考えられる。そのため、次期の腫瘍分科会においてこのような議論が継続的に行われることを強く望む。

臨床医学委員会 アディクション分科会					
委員長	池田和隆	副委員長	神尾陽子	幹事	南雅文、宮田久嗣
主な活動	審議内容 ・国内外のアディクション研究・対策の現状を調査した。 ・文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）および日本アルコール・アディクション医学会と連携して、今後必要な研究課題の調査を行った。 ・上記の調査結果について分科会で検討し、提言案を作成し、脳とこころ分科会、神経科学分科会と提言の調整を行った。 ・臨床医学委員会、第二部会、幹事会からご助言を受け、提言を改訂した。 意思の表出（※見込み含む） 4 月 15 日に提言を公表した。 開催シンポジウム等 市民公開シンポジウムを 4 月 3 日に開催予定であったが、コロナ禍のため 6 月 1 日に延期した。しかし、コロナ禍が終息せず中止となった。				
開催状況	令和元年 11 月 27 日および令和 2 年 6 月 1 日に分科会開催				
今後の課題等	・脳とこころ分科会、神経科学分科会と合同で提言を公表した。アルコール問題議員連盟会長中谷衆議院議員およびマスメディアへ提言をご説明した。提言について、朝日新聞、日本経済新聞等で報道された。厚生労働省依存症対策室および 3 つの関連する米国国立研究所の各所長と連携して今後の進め方を検討している。				

臨床医学委員会 脳とこころ分科会					
委員長	山脇成人	副委員長	齊藤延人	幹事	池田和隆 戸田達史
主な活動	審議内容				
	令和元年 11 月 9 日の分科会で、マスタープラン 2020 を提案（採択）、日本脳科学関連学会連合の将来構想委員会との連携、アディクション分科会提案の提言および市民公開シンポジウムを開催することを審議し承認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	アディクション分科会と連携して「アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言」を表出。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 11 月 9 日（土）に神経科学分科会と合同で公開シンポジウム「スポーツと脳科学」を開催。令和 2 年 4 月 3 日（金）に「現代社会とアディクション」を開催することを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。				
開催状況	分科会：令和元年 11 月 9 日、令和 2 年 6 月 1 日（Web 会議）に神経科学分科会、アディクション分科会と合同会議を開催。公開シンポジウム：令和元年 11 月 9 日開催。令和 2 年 4 月 3 日（中止）。令和 2 年 6 月初旬から臨床医学委員会、脳とこころ分科会、アディクション分科会、神経科学分科会の各委員長で新型コロナ感染拡大に伴う、研究停滞、大学院教育、メンタルヘルスの課題について Web 会議を数回開催。				
今後の課題等	新型コロナ感染への対策。日本脳科学関連学会連合将来構想委員会との連携。				

臨床医学委員会 老化分科会					
委員長	大内尉義	副委員長	遠藤玉夫	幹事	秋下雅弘、荒井秀典
主な活動	審議内容				
	令和元年 12 月 25 日 10:00～12:00、日本学術会議において第 2 回目の委員会を開催し、提言の内容に関する審議を行い、役割分担を行って、提言をまとめることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「活力ある超高齢社会の構築に向けてーこれからの日本の医学・医療、そして社会のあり方ー」というタイトルで提言を作成し、令和 2 年 7 月 30 日幹事会においてヒアリングを受けた。文言の修正を加えた後、承認。				
	開催シンポジウム等				

	2020年4月5日に日本学術会議において「明るい超高齢社会を切り開く～日本学術会議からのメッセージ～」というテーマで市民公開講座を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。
開催状況	令和元年 12 月 25 日 10:00～12:00、第 2 回目の委員会を開催
今後の課題等	提言に関する普及啓発を会場型ではなく、オンラインで市民に対し行っていく。

臨床医学委員会 移植・再生医療分科会					
委員長	澤芳樹	副委員長	森 正樹	幹事	西田幸二、岡野 栄之
主な活動	審議内容				
	1. 提言案について、修正案を提示された福嶋先生、瓜生原先生から内容に関する説明と、それについての議論を行い、最終的に 20 ページ以内のフォーマットに沿うように、再修正することを確認した。				
	2. 春以降開催予定の分科会主催シンポジウムについて検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	移植、再生医療の発展により重症臓器不全を克服するための提言を発信する予定である				
	開催シンポジウム等 (新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止)				
開催状況	令和元年 1 2 月 6 日※メール、令和 2 年 1 月 2 9 日第三回分科会会議、令和 2 年 2 月 2 0 日※メール				
今後の課題等					

臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会					
委員長	米倉義晴	副委員長	續 輝久	幹事	井上優介、神田玲子
主な活動	審議内容				
	第 22 期に提言した「医学教育の充実化」および第 23 期の報告に記載した「リスクコミュニケーションの課題」について、次期に向けて議論すべき課題を整理した。医療法施行規則改正で診療用放射線の安全管理が義務付けられたことを受けて、医療からの放射線の理解促進についての議論を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	「医療からの放射線の理解促進」についての提言を次期分科会において議論する。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和2年2月14日、令和2年6月29日（遠隔会議）、令和2年9月11日（遠隔会議）
今後の課題等	放射線の健康影響に対する様々な考え方がある中で保健医療関係者の役割が重要

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 法医学分科会					
委員長	藤田 眞幸	副委員長	西谷 陽子	幹事	橋本 優子
主な活動	審議内容				
	若手医師の進路に関する動向をさぐるアンケート（本調査）を、前回実施した予備調査の結果をもとに作成。9 大学で医学部 5・6 年次、初期研修医 1・2 年次を対象に実施した。次世代若手法医の確保には、勤務時間や収入等の労働条件の改善、キャリアパスの確立などが重要であることが示唆された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和元年 10 月 29 日 に第 5 回会議を開催し、本調査のアンケート原案を作成。その後、メールにより意見交換を重ねて改訂し、本調査を行った。令和 2 年 3 月 16 日に第 6 回会議を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により延期。令和 2 年 9 月 18 日に第 6 回会議（メール会議）を開催。				
今後の課題等	・次世代若手法医の確保のための戦略・現状の法医学(死因究明等)に関する制度の問題点と改善案の提言・法医学の重要性に関する国民の理解を深める活動の推進				

臨床医学委員会 臨床ゲノム医学分科会					
委員長	福嶋義光	副委員長	尾崎紀夫	幹事	櫻井晃洋
主な活動	審議内容				

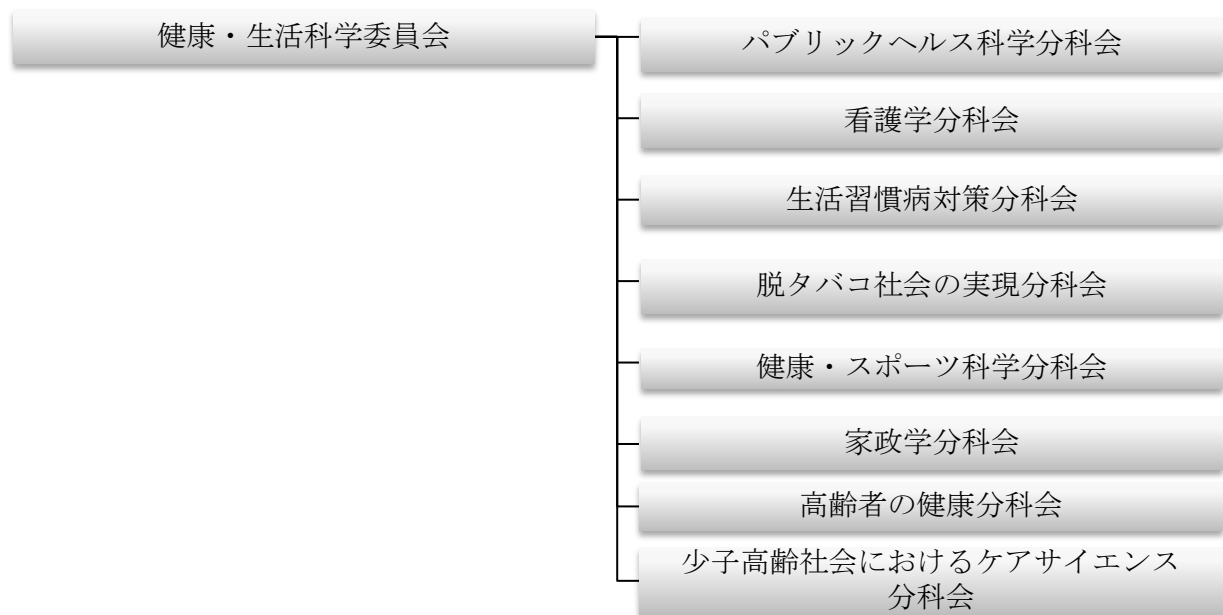
	臨床医学のさまざまな領域（臨床遺伝学、内科学、小児医学、神経学、精神医学、周産期医学、腫瘍学、病理学、等）の専門家によって構成されている臨床ゲノム医学分科会では、今後全ての臨床の場で必要となるゲノム医療の推進に向けて、①学術団体等の取組との関係、②遺伝カウンセラーの国家資格化、③遺伝子医療部門の充実、を図ることが重要であるとする提言をまとめ公表した。
	意思の表出（※見込み含む）
	提言「ゲノム医療推進に向けた体制整備と人材育成」（令和2年8月31日） http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t294-4.pdf
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第4回 R2/2/12（水）13：00—15：00 於 日本学術会議
今後の課題等	ゲノム医療協議会に提言内容をしっかり伝えること、およびゲノム科学の進展に合わせて、臨床ゲノム医学として必要な事項を継続的に審議し、日本学術会議として新たな提言を発出すること。

臨床医学委員会 感覚器分科会					
委員長	寺崎 浩子	副委員長	伊藤 壽一	幹事	石田 晋、松本 有
主な活動	審議内容				
	・With コロナ時代を見据え、スマートフォン等デジタル機器の長時間使用による感覚器に対する安全性や、コミュニケーションツールとしての可能性を検討。 ・感覚器医学の普及と振興を目指し、公開シンポジウムの実施を検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	・令和2年9月15日、市民公開シンポジウム「感覚器におけるスマートフォンの光と影」を開催。				
開催状況	令和元年10月30日、令和2年3月5日※メール、3月13日※メール、4月1日※メール、5月12日※メール、6月26日※メール				
今後の課題等	感染を恐れた「受診控え」による感覚器疾患の悪化を防止するための対策の検討。				

臨床医学委員会 慢性疼痛分科会					
委員長	紺野慎一	副委員長	矢部博興	幹事	関口美穂

主な活動	審議内容
	分野の異なる委員により多面的に議論を深めるために慢性疼痛分科会を設立した。主な審議内容として、1) 社会への提言であるので、一般的にはなるが、国民が知る必要のある内容を含める。2) 啓発活動や教育の視点を含めることが必要である。3) 心理的アプローチを精神学的アプローチと分野を広げることが有用である。4) 整形外科、精神科、ペインクリニック、リハビリテーション、基礎の分野から、疼痛メカニズムの専門家から助言をいただく、または今後の構成員としての推薦を行う。という点が挙げれた。
	意思の表出（※見込み含む）
	慢性疼痛の診断と治療を科学的に評価し、診断や治療に結びつく疼痛メカニズムをわかりやすくして情報提供するとともに、科学の進歩により新知見が蓄積されていくことから、継続的に疼痛のメカニズムを教育することを含めた必要性を提言し、実現を図ることを推奨する。
	開催シンポジウム等
	未開催
開催状況	令和元年 12 月 10 日(火) 令和 2 年 2 月 7 日（メール審議）、令和 2 年 9 月 24 日（木）予定
今後の課題等	科学的根拠に基づく慢性疼痛のメカニズム、診断および治療について、重要事項を抽出し、提言案を完成させる。

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	片田範子	副委員長	秋葉澄伯	幹事	宮地元彦 小松浩子
主な活動	審議内容				
	① 健康・生活科学委員会を基軸に、関連学協会の連携・協働により、マスタープラン 2020 として「Society5.0 の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」を立案した。 ② 健康・生活科学分野における課題を検討し、提言の発出ならびにシンポジウムの企画を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	① 健康・生活科学委員会によるマスタープラン 2020 として「Society5.0 の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」が重点大型研究として採択された。 ② 健康・生活科学委員会付置分科会及び関連の委員会と合同で設置した分科会から、下記の提言を発出した。（第 24 期 3 年目） 提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」提言「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性和プラスチックのガバナンス」提言「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである」提言「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」提言「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」				
	開催シンポジウム等				

	新型コロナウイルス感染症のため「シンポジウム：いのちと生活を守るシリーズ」を企画中断した。
開催状況	(第24期3年目) 令和元年10月17日
今後の課題等	新型コロナウイルス感染症による健康・生活へ影響について広くその実態を把握し、with コロナ、post コロナにおける健康生活の促進に向けた提言の発出が必要である。

健康・生活科学委員会 看護学学科会					
委員長	片田範子	副委員長	小松浩子	幹事	西村ユミ、井上智子
主な活動	審議内容				
	看護学学科会として、ケアサイエンス班をベースに「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」と連携、「学術大型研究計画」に応募すること、高度実践看護職班、地元創生班の活動内容推進のための討議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	健康・生活科学委員会によるマスタープラン「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」に参画し、重点大型研究として採択された。				
	提言「「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」を創案し、審議中である。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	会議：令和元年12月23日、令和2年2月10日、幹事会：5月28日				
今後の課題等	少子高齢さらにはコロナ禍（COVID19感染拡大）による価値観の変化、新たな生活様式が求められる中で、介護と福祉も包括したケアと看護の在り方を検討していく。さらには本邦における高度実践看護師制度に向けた取り組みの次なる展開として、学際的（医学、法学々との連携）な活動を行っていく。				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会					
委員長	八谷寛	副委員長	磯博康	幹事	藤原葉子、児玉浩子
主な活動	審議内容				
	幼小児期・若年世代からの生活習慣病予防の現状及び問題点について議論を重ね、(1) エコチル調査等のライフコース疫学研究の長期継続、幼小児期・若年世代を対象とした研究の充実、(2) 若年女性・妊産婦の栄養改善、(3) 地域・学協会等と連携した学校での健康教育の深化、高校卒業後以後の健康教育の機会保障、(4) 医学部における栄養・身体活動・生活指導教育の強化、				

	に関し提言を作成した。 意思の表出（※見込み含む） 提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る出生前からの基盤づくりと教育の重要性」 開催シンポジウム等
開催状況	令和2年1月6日 第4回分科会：提言案についての審議
今後の課題等	提言のインパクトを高めるための関連省庁・学協会等への周知

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会					
委員長	秋葉澄伯	副委員長	村上伸也	幹事	井上真奈美
主な活動	審議内容 以下がおもな審議項目である。 妊婦・こどもの喫煙対策 加熱式タバコ、電子タバコなどの新式タバコへの対策 タバコの使用と歯周病リスク 意思の表出（※見込み含む） 提言「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである」が2020年3月13日に公表された。 その後、分科会での検討に基づき、提言案「子供・妊婦への受動喫煙対策をさらに充実させるべきである」を作成した。現在、幹事会で審議中である。 開催シンポジウム等 令和2年9月27日に市民公開シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援などの喫煙対策の場として活用すべきである」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため、無期延期となった。				
開催状況	第一回平成30年3月1日 第二回平成30年7月31日 第三回平成30年10月18日 第四回平成元年8月9日 第五回平成元年11月15日 第六回平成2年1月8日 第七回平成2年3月23日				
今後の課題等	妊婦・こどもの喫煙対策、タバコの使用による歯周病リスクに関する議論をさらに深めるとともに、加熱式タバコ・電子タバコについてのなどの新式タ				

	バコへの対策などについて検討する。
--	-------------------

健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会					
委員長	田原淳子	副委員長	川上泰雄	幹事	宮地元彦・来田享子
主な活動	審議内容				
	提言「社会参加へと導くスポーツのあり方（仮）」をまとめている。内容は、スポーツに関わる10項目（現状と課題、障害者、子ども、ワークライフバランス、高齢者、ジェンダー、経済格差、国籍・民族、国際動向、社会を変える力）で構成。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和2年9月下旬に提言をまとめ、提出予定。				
	開催シンポジウム等				
	2020 横浜スポーツ学術会議（令和2年9月8日～22日、オンライン開催）を日本体育学会、日本スポーツ体育健康科学学術連合と共に共同主催）				
開催状況	令和2年1月16日、令和2年8月6日、令和2年9月24日				
今後の課題等	提言で網羅できなかった諸課題について議論を行う。				

健康・生活科学委員会 家政学分科会					
委員長	小川宣子	副委員長	塚原典子	幹事	倉持清美・都築和代
主な活動	審議内容				
	・衣・食・住生活に関わる各種資格士の現状・社会に対する貢献度・今後の課題等について養成課程を於いている家政系大学にアンケート調査を実施し、より社会に貢献出来る資格士の育成を目指したカリキュラム案の改訂・指導教員の育成、さらには家政学の研究教育の将来展望等に関する提言を表出した。				
	・本分科会と生活科学(=家政学)関連学協会との連携を目指して設立した「生活科学系コンソーシアム www.seikatsuconso.jp/ 」の活動についても審議し、支援した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」（令和2年7月27日）、提言「住居領域における専門教育と資格教育の在り方」（令和2年7月27日）を表出。提言「被服学分野の資格教育の現状と展望」を表出見込み（令和2年9月）				
	開催シンポジウム等				

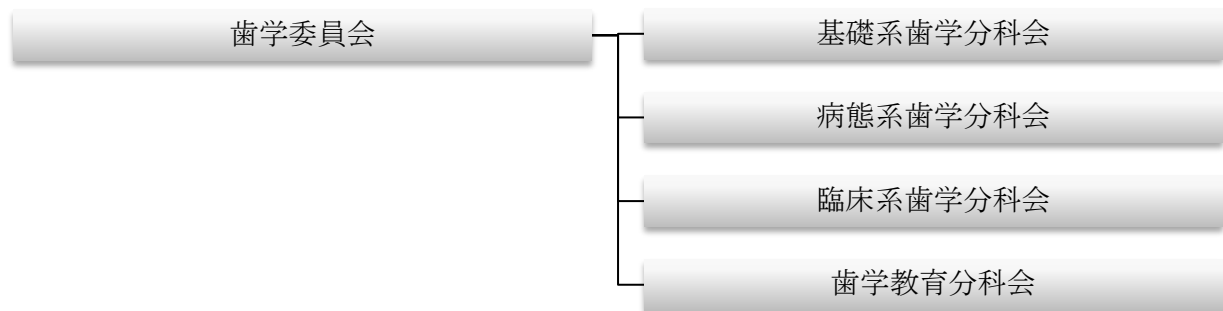
	・生活科学系コンソーシアム主催のシンポジウム「まとうことについて考える」（令和元年12月21日、日本女子大学）を開催した。
開催状況	令和元年12月17日
今後の課題等	24期では、「健康で充実した生活を過ごすため」指導的な役割を担っている家政学関係の各種資格士養成について検討し、提言の表出を行った。提言作成のために関係所管などとのヒヤリング、関連学協会等への情報発信、表出した提言の認知や連携を図るために関係する行政とのシンポジウム等を実施してきた。今後は、さらに表出した提言の内容の関係機関への周知を図り、意見を求めるため、シンポジウムを実施する。また、24期では提言としてまとめることができなかった生涯教育の実施案について提言表出に向け、検討を行っていく。

健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会					
委員長	長田久雄	副委員長	住居広士	幹事	須田木綿子・田高悦子
主な活動	審議内容				
	2019年12月13日15時から17時に第3回分科会を開催した。前回議事録案が承認され、今期のテーマについて検討した。これを基に、今後の本分科会の進め方について「高齢者が安心して元気で暮らせるために」をテーマとするSymposiumを開催することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	Symposiumの結果を受けて提言を行う予定であったが、Symposiumが中止となったため現時点で予定はない。				
	開催シンポジウム等				
	2020年5月17日に「高齢者が安心して元気で暮らせるために：フレイル予防に焦点をあてて」と題するSymposiumを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染流行による自粛要請があり中止した。				
開催状況	2020年5月17日に予定されていたSymposiumが新型コロナウイルス感染流行のための自粛要請で中止となった。				
今後の課題等	新型コロナウイルス下で多くの委員が対応に追われており今期は分科会の活動が停滞したので、終息後に今期の課題を実施することが本分科会課題である。				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会					
委員長	小松 浩子	副委員長		幹事	井上智子・西村ユミ
主な活動	審議内容				

	1. 提言「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」(案)を作成し、健康・生活科学委員会、臨床医学委員会、第二部の審議を経て、幹事会に提出した。 2. 健康・生活科学委員会による「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」に参加し、マスタープラン2020の大規模研究計画となり、これを基にしたロードマップを作成して提出した。
	意思の表出(※見込み含む)
	ロードマップ「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」 提言「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」(審議中)
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	会議：令和元年12月23日、令和2年2月10日、幹事会：5月28日
今後の課題等	学問領域を超えて「ケアサイエンス」を定着させるための取り組み

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	丹沢 秀樹	副委員長	市川哲雄	幹事	西村 理行
主な活動	審議内容				
	- 第 24 期分科会テーマに沿って、令和 2 年度の学術会議シンポジウムのサブテーマとオーガナイザーを決定 - マスタープラン 2020 の活用について - 若手人材育成と登用の促進について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制」令和 2 年 9 月 11 日発出（私学委員会、病態系私学委員会、臨床系歯学委員会共同）				
	開催シンポジウム等				
	- 歯学委員会、臨床系歯学分科会の共同主催：公開シンポジウム「食力向上による健康寿命の延伸」令和 2 年 9 月 11 日（公社）日本補綴歯科学会後援 - 歯学委員会、歯学教育分科会共催で令和 2 年 4 月 15～17 日開催の第 74 回日本口腔科学会学術集会（新潟市）でシンポジウム「歯科保健医療の需要に対応した人材育成、質保証」開催を計画。（新型コロナウイルス感染症のため中止） - 歯学委員会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会の協力で公開講演会「歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」の開催を計画。（新型コロナウイルス感染症のため延期）				
開催状況	令和元年 10 月 14 日 （新型コロナウイルス感染症のため、個別にメールで相談をし合ったが、会議形式はとらなかった。）				
今後の課題等	第 25 期の分科会テーマと活動方針の決定、若手基礎研究者の育成活動、口腔				

	科学研究の重要性の社会への認知推進
--	-------------------

歯学委員会 基礎系歯学分科会					
委員長	東 みゆき	副委員長	西村 理行	幹事	石丸 真澄
主な活動	審議内容				
	- 第 24 期分科会テーマ 「口腔と全身のネットワーク」に沿って、令和 2 年度の学術会議シンポジウムのサブテーマとオーガナイザーを決定 - マスタープラン 2020 の活用について - 若手基礎研究者育成の育成と登用の促進について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	歯科基礎医学会日本学術会議シンポジウム「口腔と全身のネットワーク～咀嚼・嚥下と脳・神経機能の連関～」 令和 2 年 9 月 21-27 日 Web 開催				
開催状況	令和元年 10 月 14 日 令和 2 年 9 月メール会議予定				
今後の課題等	第 25 期の分科会テーマと活動方針の決定、若手基礎研究者の育成活動、口腔科学研究の重要性の社会への認知推進				

歯学委員会 病態系歯学分科会					
委員長	岡本 哲治	副委員長	品田 佳世子	幹事	丹沢 秀樹
主な活動	審議内容				
	- 第 24 期分科会テーマに沿って、令和 2 年度の学術会議シンポジウムのサブテーマとオーガナイザーを決定 - マスタープラン 2020 の活用について - 若手人材育成と登用の促進について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制」 令和 2 年 9 月 11 日発出（私学委員会、病態系私学委員会、臨床系歯学委員会共同）				
	開催シンポジウム等				
	歯学委員会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会の協力で公開講演会「歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」の開催を計画。（新型コロナウイルス感染症のため延期）				

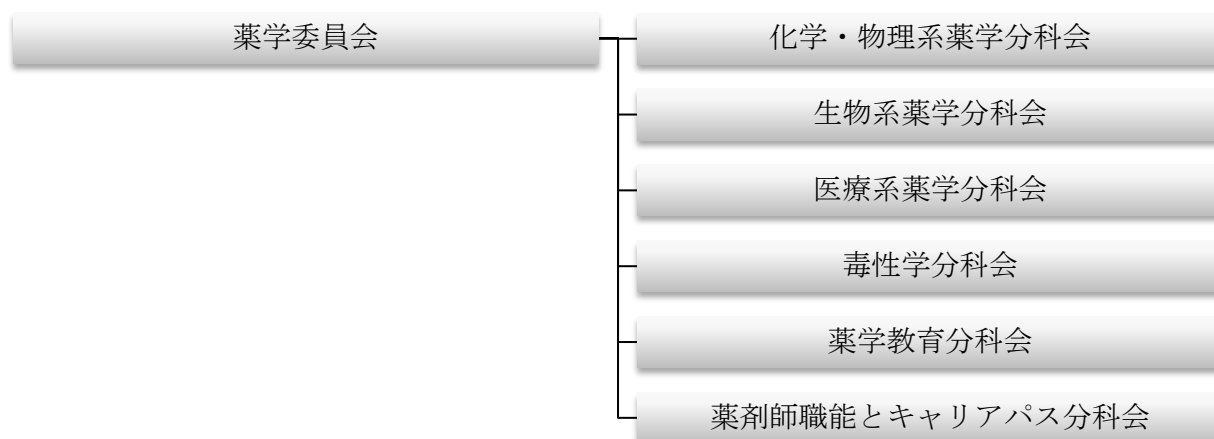
開催状況	・ 令和元年 10 月 14 日 (新型コロナウイルスのため、個別にメールで相談をし合ったが、会議形式はとらなかった。)
今後の課題等	第 25 期の分科会テーマと活動方針の決定、若手基礎研究者の育成活動、口腔科学研究の重要性の社会への認知推進

歯学委員会 臨床系歯学分科会					
委員長	市川哲雄	副委員長	村上伸也	幹事	馬場一美
主な活動	審議内容				
	「口腔からの健康寿命の延伸」「新たな臨床指標の確立と医療ネットワークの構築」推進のために、日本歯学系学会協議会の協力の下、歯学系の学協会からの要望、課題調査を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	○歯学委員会、臨床系歯学分科会主催で公開シンポジウム「食力向上による健康寿命の延伸」を（公社）日本補綴歯科学会の協力で行った。				
	○歯学委員会（病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会の協力）で公開講演会「歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」の開催を計画した。（新型コロナウイルスのため延期）				
	平成 30 年 1 月 31 日（第 1 回） 平成 30 年 9 月 10 日（第 2 回） 令和元年 10 月 18 日（第 3 回）				
今後の課題等	国民の健康を守り、向上させるための臨床系歯学の臨床指標の周知				

歯学委員会 歯学教育分科会					
委員長	前田 健康	副委員長	古谷野 潔	幹事	市川 哲雄
主な活動	審議内容				
	今期の分科会テーマ「歯科保健医療の需要に対応した人材育成、質保証」に基づき、シンポジウムのテーマ・内容を審議し、多職種協働の中で歯科医師の果たすべき役割および歯学教育の方向性について意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	令和2年4月15～17日開催の第74回日本口腔科学会学術集会（新潟市）でシンポジウム開催予定であったが、COVID-19の感染拡大により中止
開催状況	
今後の課題等	超高齢社会における歯学教育の質の担保

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	佐治英郎	幹事	
主な活動	審議内容 ・薬学委員会の所掌する各分科会の活動について情報共有した。 ・学術会議の今年度の活動方針を情報共有した。 ・第二部会の分科会の今後のあり方についての検討に基づき、本委員会が所掌する分科会の整理と継続の必要性について議論した。いずれの分科会も重要であり第 25 期も原則継続することとし、新規の分科会は必要に応じて検討することとなった。 意思の表出（※見込み含む） 第 24 期において、薬剤師職能とキャリアパス分科会から提言を発出（査読中）、毒性分科会から「学術の動向（令和元年 11 月号）」に「環境汚染物質の Human biomonitoring」を報告、医療系薬学分科会から「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」を「薬学雑誌 139(3):393-417(2019)」に誌上シンポジウムとして論文発表、生物系薬学分科会と医療系薬学分科会共同で学術会議叢書 25「IT・ビッグデータと薬学－創薬・医薬品適正使用への活用－」（編集協力 日本学術会議事務局・公益社団法人日本薬学会）を平成 31 年 2 月 25 日に発行した。 令和 2 年度の活動は以下の通りである。 ・毒性分科会：「学術の動向」に「環境汚染物質の Human biomonitoring」を報告（2019 年 11 月号） ・薬剤師職能とキャリアパス分科会：提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」を発出予定 ・医療系薬学分科会：コロナ禍で中止となった医療系薬学分科会企画・日本薬学会主催シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関				

	する薬学的アプローチ」で発表予定だった内容を「薬学雑誌」に誌上シンポジウムとして論文投稿
	開催シンポジウム等
	第24期において、シンポジウムを全8回開催した。 令和2年度の開催シンポジウムは以下の通りである。 ・化学・物理系薬学分科会：シンポジウム「モダリティーが切り拓く次世代創薬」令和2年12月8日（火）13:00～17:40 開催予定（Zoom ウェビナーを利用） ・生物系薬学分科会：シンポジウム「ゲノムビッグデータ解析の新潮流」令和2年1月17日（金）開催、「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」令和3年1月18日（月）開催予定 ・毒性分科会：シンポジウム「複合曝露評価と Human biomonitoring (HB)」令和2年1月16日（木）開催、「毒性学研究のこれから～「外」からみた毒性学～」令和2年9月11日（金）開催予定 医療系薬学分科会：日本薬学会年会においてシンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」令和2年3月26日開催予定であったがコロナ禍で中止
開催状況	令和2年1月23日
今後の課題等	薬学における基礎研究力の強化と人材育成、女性研究者に対する支援、少子・超高齢社会における薬剤師のあり方、毒性学の社会的役割、医薬品の安全性・毒性データとリスクコミュニケーション、新興感染症への対応

薬学委員会 生物系薬学分科会					
委員長	土井健史	副委員長	一條秀憲	幹事	井上純一郎、笠原忠
主な活動	審議内容				
	・生物系薬学領域において注目される課題について議論し、ゲノムビッグデータを活用した研究、および臓器や固体モデルを用いた創薬研究に注目し、専門家を集めて情報を収集し今後の研究展開を考察した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、海外での日本人研究者や留学生の現状について情報交換を行い、学術会議としての対応について検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・医療系薬学分科会、および化学・物理系薬学分科会との共同でシンポジウム等を開催し、それを基に意思の表出の可能性を探る見込み。				
	開催シンポジウム等				
	・令和2年1月17日（金）日本学術会議に於て「ゲノムビッグデータ解析の新潮流」というテーマでシンポジウムを開催した（実行委員長：新井洋由				

	委員)。 ・令和3年1月18日(月)「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」というテーマでシンポジウムを開催予定(実行委員長:藤田直也委員)。
開催状況	・令和2年1月17日(金) 11:30~12:30 日本学会議会議室 ・令和2年6月16日(火) 16:00~17:00 Zoomによる遠隔会議
今後の課題等	・新興感染症に対する対応

薬学委員会 医療系薬学分科会					
委員長	寺崎 哲也	副委員長	高倉 喜信	幹事	入江 徹美、伊藤 美千穂
主な活動	審議内容				
	・令和元年7-10月に、全国国公立大学薬学部を対象に「食品・医薬品の品質保証に関する薬学教育の実態調査」としてアンケートを実施した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	学会議叢書25「IT・ビックデータと薬学-創薬・医薬品適正使用への活用-」を発行した(平成31年2月)。第25期に「健康サポートに貢献する薬学教育研究の推進/あり方~品質保証に係る「モノからの健康医療へのアプローチ~(仮)」報告書を発出する予定で、報告書原案を作成した。				
	開催シンポジウム等				
	・令和2年3月26日に日本薬学会年会において医療系薬学分科会企画・日本薬学会主催シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」を開催予定であったが、中止になった。同日、講演予定演者が集合しアンケート結果を含めて討論した。 ・上記シンポジウムで発表予定だった内容を「薬学雑誌」に誌上シンポジウムとして論文発表する為、原稿を投稿した。				
開催状況	報告執筆担当者間のWeb会議5回(令和2年4月14,21日,5月12日,6月9日,8月8日)、分科会のメール会議3回(令和2年1月20,24日,6月17日)を開催した。				
今後の課題等	・令和元年に実施したアンケート「食品・医薬品の品質保証に関する薬学教育の実態調査」、薬学雑誌に誌上シンポジウムとして発表予定の「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」、及び委員間での討論を通じ「健康サポートに貢献する薬学教育研究の推進/あり方」を整理し、上記報告書の原案を作成した。当該報告書は第25期に幹事会に提出し、早期の発出を目指す。				